

1 学校教育目標

三綱領のもと、知・徳・体の調和がとれた教育活動を展開し、高い知性と豊かな感性を持ち、心身ともに健康で、主体的に考え判断し、行動できる力を備えた地域や社会の発展に寄与する人材を育成する。

2 本年度の重点目標

1 授業の充実

- ・「南稜スタンダード」やICTを活用した分かる授業の推進
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・社会とつながる実学教育の推進
- ・産学官連携による特色ある教育活動の展開

2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚

- ・「挨拶ができる・時間を守る・身だしなみを整える」習慣の定着
- ・お互いの個性を認め合い、支え合うことができる集団の育成
- ・学校行事や部活動、ボランティア活動などを通した自主性と主体性の育成
- ・地域や異年齢集団との交流活動を通した自己有用感の醸成

3 教育相談体制の充実

- ・自治体や関係機関との連携強化
- ・個別の教育支援計画と指導計画による指導の充実
- ・いじめを許容しない雰囲気の醸成
- ・自他の大切さを認め、豊かな人権感覚を育てる集団づくりの推進

4 安全・防災・保健・環境教育の充実

- ・地域に密着した安全・防災教育の実践
- ・危険を予知し回避する実践的行動力の育成
- ・学校版ISOの推進
- ・健康教育の推進と検診後受診率の向上

5 魅力ある学校づくりの推進

- ・SNSも活用した情報発信力の向上
- ・地域連携・中高連携・高大連携による教育の魅力化推進
- ・学校運営協議会員等との連携強化と外部評価の活用
- ・地域貢献活動の推進

6 働き方改革の推進

- ・心身ともに健康に働く職場づくりの推進

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	募集定員の確保	入学者数の確保	全学科、定員80%以上の受検者確保と入学者数150人以上	ホームページやマスコミ等を活用して本校教育活動を周知する 体験入学及び中学生保護者向け学校説明会を充実させる	B	○具体的な方策の他にも、生徒主体のインスタグラムで情報の発信を行った。 ○ホームページ1日の平均閲覧数は約1,700件を超えており、各学科ともに職員が熱心に最新の情報の更新を行った。 ○志願者数は134(105)名と前年よりは増加したが目標値までは届かなかつた。

	業務の改善	実効性のある業務改善の実践	「働き方改革を意識した業務遂行ができる」と回答する職員85%以上	ノーリストの定時退勤を徹底させる 整理整頓日(クリーンデー)を設定するアンケートはFormsやChromebookを活用し効率化を図る	B	○特別教育支援員および部活動における外部指導員を採用した。 ○職員アンケートでは「南稜高校は働き方改革が計画的に推進されている」52.2%(50.0%)、「私は働き方改革を意識し、業務の効率化と計画性を図っている」76.1%(80.8%)で、働き方改革の推進は改善されたものの、個人の意識や効率化と計画性については昨年度より低下した。
	働き方改革の推進	働き方改革の実践	時間外勤務の縮減(超過勤務平均時間の前年度比10%削減)	「働き方改革の推進方針～できることからまず1つ～」に沿った改革を推進する 主任主事等を中心に行なう働き方改革を推進する	B	○月平均時間外勤務時間は43時間程度だった。また、80時間を超える職員は平均4名で、昨年度と同数であった。 ○「働き方改革の推進方針～できることからまず1つ～」に沿った改革に取り組んだ。
学力向上	わかる授業の実践	授業改善	生徒の90%以上が「授業が理解できた」と回答する「わかる授業」の推進	公開授業期間(デー)や授業研さんの機会を通して、南稜スタンダードの観点から各教科及び学科内で授業内容の振り返りを図る	A	○授業で「わかった」「できた」という達成感があると回答した生徒が約90%である。今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタイル」の理念に基づいた授業実践を継続していく。
			ICTを活用した授業の実践	職員への南稜スタンダードとICT活用の浸透及びその定着を図る機会を設ける	A	○「ICTの資料は丁寧で分かりやすい」と回答した生徒が92.5%である。こうした効果により「授業に積極的に参加している(92.3%→93.0%)」、「授業で『わかった』『できた』という達成感がある(87.8%→89.7%)」と回答した生徒の割合が昨年度よりも上昇した。
	学習習慣	欠席防止	13クラス中8クラスで年間出席率98%以上	各部と出欠状況の共有を図る 担任や学年団を中心に、家庭と連携した登校支援を充実させる	B	○13クラス中1クラスが98%以上を達成した。学校全体としては96.1%(12月末)で昨年度より1.5P下回った。引き続き学習意欲の更なる喚起、及び不登校傾向生徒への継続的な対応を実施していく。

キャリア教育 (進路指導)	進学・就職支援	進路目標の達成	進学・就職とも、志望先への合格・内定100%	希望調査と面談による適正な選択を支援する	A	○多くの生徒は進路活動に積極的に取り組み、進路目標を達成させた。 ○全員が合格内定した。
	定着指導	就業の継続	1年以内の早期離職率15%以下	3年生に早期離職防止のための講話をを行う	A	○令和5年3月卒業生の離職者は7名(10.1%)。1年以内の離職者が前年度よりやや多く、入社後間もなくの離職もあった。
生徒指導	生徒の自発的・主体的な成長や発達を支える指導	生徒が南稜高校の一員として役割を担い持てる能力を発揮して協働し、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶ学習活動の充実を図る	○社会的資質・能力の育成 ○「私は学校行事や部活動、ボランティア活動などに積極的に参加している」生徒75%以上 ○自己指導能力の育成 ○「南稜高校に通うことは、自分の将来にとって意義があると感じている」生徒88%以上	生徒が学校行事等の特別活動に積極的に関わることで、学校の諸活動に参画している意識をもち、主体的で発展性のある生徒会活動を推進する 集団としての連帯感を高め、集団や社会の形成者としての望ましい態度や行動の在り方を学ぶ場として特別活動を活用する	A	○「私は学校行事や部活動、ボランティア活動などに積極的に参加している」生徒74.5%であり概ね達成している。体育大会・南稜祭を通して主体的に行事に参画する体験ができることが伺える。また、ボランティア活動の呼びかけが盛んにおこなわれており、生徒が地域貢献を実感する機会が増加したこと、自身の成長を感じている証である。 ○「南稜高校に通うことは、自分の将来にとって意義があると感じている」88.1%であった。今後も生徒自身が集団や社会の形成者として自発的に行動できるよう特別活動を充実させていきたい。
人権教育の推進	人権教育・適応指導	生徒の人権意識の高揚 職員の人権教育の指導力の向上	○人権教育による思いやりの気持ちの高揚に関する生徒の学校評価における肯定的評価80%以上 ○職員研修事後アンケートにおける今後の教育活動に生かすことにに関する質問の肯定的評価	○6月の人権教育LHR、10月の人権教育講演会の実施を通して人権意識の深化を図る ○人権教育に関する掲示物や配付物を通して人権をより身近に感じるよう工夫する ○8月の人権教育職員研修において「【第3次とりまとめ】に示された理論と実践」に関する	A	○「私は南稜高校での人権教育をとおして他人を思いやる心を持ち、人に優しく接しようとする思いが強くなった」89.0%で、概ね達成することができた。人権教育LHRでは、1年生「男女共同参画」、2年生「水俣病をめぐる人権」、3年生「言わない、書かない、提出しない」と、系統的な学習を設定することができた。人権教育講演会では「性的マイノリティと人権」について学習し、自分の問題として捉えることができた。 ○掲示板の設置には至らなかった。 ○事後アンケートの「今後の教育活動に生かすことのできる内容はありましたか」94.9%が「あった」と回答した。 ○8月と2月の年間2回の職員研修に加えて、人権

		80%以上	<p>研修を実施することで指導力の向上を図る</p> <p>○12月の人権教育職員研修において人権教育関係の研修会の復講を実施することで、人権教育への関心を高める機会とする</p>		教育講演会への参加や「熊本県人権子ども集会」の視聴など様々な研修の機会を設定することができた。
命を大切にする心をはぐくむ指導	予防的教育相談の実施	○南稜高校の先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる88%以上	<p>○担任・副担任による定期面談を年3回実施。その他心のアンケートや心のケア調査、Hyper-QU テスト等の取組後の随時面談の呼びかけ</p> <p>○SC、SSW等の積極的な活用と担任との連携による生徒の見守り。外部相談窓口の情報提供の徹底</p>	B	<p>○「南稜高校の先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれる」86.5%。学期はじめの個別面談や心のアンケートなどすべて実施した。SC、SSW共に活用できた。支援会議で情報を共有し連携を図った。長期休暇前には複数の外部相談窓口を案内した。</p>
特別支援教育体制の充実	個別の教育支援計画・指導計画の作成と活用	○クラスごとの個別の教育支援計画等に関する教科担当者会の開催率50%以上	<p>○毎週1回実施の生徒支援会議において個別の教育支援計画の検討を実施することで組織的な支援計画の運用を図る</p> <p>○クラスごとの教科担当者会の開催を促すことで教科担当者の共通理解と手立ての実施を図る</p>	B	<p>○個別の教育支援計画等の作成や保護者との合意形成を必要とする多くの生徒において行ったが、一部の生徒について教科担当者会を開くまで至らなかった。</p>
	生徒・保護者のニーズに応じた支援の充実	○個性やニーズに合った指導や支援に関する生徒の学校評価における肯定的評価80%以上	<p>○SCやSSWによる面談を積極的に活用し、生徒の困り感をできるだけ引き出すように努める</p> <p>○特別支援学校や療育相談員による巡回</p>	A	<p>○「南稜高校の先生は私の個性やニーズに合った指導や支援を行ってくれている」85.1%であり、概ね達成できた。SCやSSW、特別支援学校の巡回相談を積極的に活用できた。</p>

				相談や教育相談を活用し、より有効な手立てを考えるよう努める	
いじめの防止等	いじめの未然防止・早期発見・事案対処	いじめをしない態度や能力を身につける働きかけを行い、いじめを生まない環境づくりをする	○「南稜高校の先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれる」88%以上	○学期はじめの個人面談アンケートやスクールサイン、週1回の生徒支援会議等をとおして生徒の把握と教員間の適切な情報共有を図る	B ○「南稜高校の先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれる」86.5%。面談週間やLHRを活用し、生徒が相談しやすい体制づくりを図った。週1回の支援会議で情報共有を綿密に行い、適正に対応できた。
			○「南稜高校ではいじめや暴力などを見過ごさず早期に対応してくれる」90%以上	○情報集約担当者である学年主任を中心に、集約された情報を基に組織的にいじめ防止の対応を行う	B ○「南稜高校ではいじめや暴力などを見過ごさず早期に対応してくれる」生徒84.8%（昨年比8.7P増）であったが、保護者は78.3%、特に2学年でマイナス評価が増加している。本年度いじめの認知は3件あり、いずれも解消に向け見守りを行っている。
			○「南稜高校は、安全かつ安心して生活できる環境が整っている。」80%以上	○生徒総会時に『いじめ撲滅宣言』を行い、いじめを許さない環境づくりを行う ○LHRを活用し、ストレス対処やSOSの出し方を級友と共有することで、いじめが起きにくい環境づくりに務める	A ○「南稜高校は、安全かつ安心して生活できる環境が整っている。」生徒86.8%であったが、「南稜高校は落ち着いたよい学校である」生徒68.9%（昨年比15P増）、保護者85.8%（昨年比1.1P減）と乖離が大きかった。保護者にも相談できていない生徒がいる可能性が考えられる。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校運営協議会の開催	総合型コミュニティ・スクールの実践	○地域や学校の実態を踏まえた授業や関係機関と連携した授業など特色ある授業に取組んでいる教員85%以上	○学校運営方針の周知と共有を図る ○学校の課題や情報等の共有を図る ○学校の課題の解決に向けた協議に取り組む	B ○授業においては79.5%の教員が特色ある授業に取組でいると回答し、生徒も96.0%、保護者も94.1%が肯定的回答であった。 ○運営協議会では、学校運営方針の周知や学校課題の解決に向けた意見交換ができた。
	地域連携	地域とともにある学校づくりの実践	○地域連携や地域活性化に関する活動への参加生徒70%以上	○地域イベントへの積極的参加と地域と連携した研究活	A ○今年は、イベント依頼が増え、たくさんの生徒が参加できた。 ○今年度はようやく開放講座を開くことができ、4

				<p>動を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学科で開放講座を実施する 	講座にのべ40人の受講があつた。
		地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○「郷土に誇りを持っている」生徒 90%以上 ○農業系学科・コースでの地域資源活用率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域特産物や人材を活用した授業展開による郷土愛の醸成及び新たな地域資源活用方法を提案する 	<p>○地域特産物や人材を活用した授業展開によって郷土に誇りを持っている生徒は「他校でない特色のある授業を受けることができている」が 95.4%であり、地域特産物や人材を活用した授業展開により郷土愛が醸成された。</p> <p>○農特産物等地域資源を活用した学習活動を展開した。また、復興支援プロジェクト学習にも取り組んだ。</p>
特色ある学校作り	専門教育の充実	南稜スタンダード農場版の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○「専門教科に興味・関心がある」「学習内容を理解している」生徒 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎、基本を押さえた授業を実践する ○全教科でポートフォリオ評価を行う 	<p>○授業評価において「積極的に参加している」93.0%「分かったという達成感がある」89.7%と昨年度よりも上回る高い評価であった。</p> <p>○ポートフォリオ評価は全科目での実施までには至らなかった。</p>